

現地発 ワールド 経済

優秀な人材育て活用

少子化に伴って国内の技術者不足が深刻となる中、ミャンマー人に狙いを定め、正社員として採用する日本企業が増えている。就労期間が原則三年の「技能実習生」とは異なり、現地の大学を卒業するなど一定の要件を満たせば、就労ビザを取得できることも要因だ。優秀な人材を日本に送り込むため、ミャンマーの最大都市ヤンゴンで、言葉などの「壁」を打ち破ろうとする取り組みが本格化している。(ヤンゴンで、山上隆之、写真も)

ミャンマー 日本で正社員

■出欠管理を徹底
ヤンゴンのオフィス街の一角にある雑居ビル。講師が「国の経済発展に必要なものは何ですか」と問い掛けると、次々と手が挙がり、「教育」「平和」「交

通」などと生徒たちが答える。流ちょうな日本語が教室に飛び交った。人材派遣のジェイサット



コンサルティング(ヤンゴン)が二〇一三年に開設した「日本語訓練センター」には、工科大学などを卒業したばかりの若者が通う。八カ月間で日本語のみならず、ビジネスマナーや業界

用語も身に付けさせる。無断欠席を三回すれば退学にさせるなど、校則も厳しい。ジェイサットの西垣

充社長(右)は「企業側は即戦力を求めている。日本で



①日本で働きたいと、日本語の習得に励むミャンマー人の若者たち ②ネット回線を利用した電話サービスで画面に映る上司から指示を受けながら作業する豊橋設計の女性社員=いずれもヤンゴンで



■まじめでしっかり
ミャンマーでは三月にア

徹底している」と語る。一五年はIT業界を中心に七十人が日本企業に就職した。今年の内定者は百人を

が夢」と目を輝かせた。女性技術者八人を採用した豊橋設計(愛知県豊橋市)は、一歩進んだ採用をしている。日本の本社に送り込むだけでなく、優秀な人材は帰国させ、ヤンゴン事務所で勤務させている。

ワン・サン・スー・チー氏主導の新政権が発足。規制緩和で外資の進出が加速しているものの、「ミャンマーの雇用は不足している。日本への就職希望者は依然多い」と西垣社長。地元

元の大学で建築設計を学ぶセンターに通う女性のニンさん(左)は「いずれは帰国して自分の会社をつくるの

設計システム(CAD)での工作機械の設計を請け負う同社では、パソコンや通信環境さえ整っていれば、勤務地は問題ではない。ネット回線を利用した電話サービスで、上司は豊橋市の本社にしながら的確に業務内容を指示できる。日本人社員を現地に常駐させる必要がないため、労務コストは大幅に軽減できるという。「困ったことがあれば電話ですぐに助けてもらえ